

# 白紙余談

## ハラスメントに陥らない叱り方や注意の仕方とはどのようなもの？

◇現代は叱り方、あるいは叱る言葉の使い方や選び方がとても難しい。これは多くの経営者や、部下を抱えた管理職の皆さん方が、常日ごろ痛感していることではなからうか。ハラスメントという言葉や考え方が一般化する（というより、いたずらに意味が拡散し過ぎた）に従い、その傾向はますます強まりつつある。

◇実際、相手のことを思っているつもりで発した言葉が皆「今の世の中ではハラスメント」と受け取られるのであれば、どうしたらいいか分からなくなる。いったいそのこと、叱るのは止めようか？ つい、そんなことを思ってしまった経験もあるのではなからうか。

◇でも、周知のように、それではもちろん、何の解決にもならない。では、ハラスメントと受け取られがちな叱り方や言葉と、ハラスメントになりにくい叱り方や言葉との違いは、どのあたりにあるのか？

◇これは一概に「これこれ、こうだ」とは言えないことだけに、厄介ではある。しかし、一つだけ言えるのは、それが単に言葉尻や態度の問題（言葉の選び方など）だと考えているうちは、事は一向に解決に向かわない、ということではないだろうか。

◇筆者の知り合いに、知的障害者向けの就労施設を運営している人がある。そこを訪れるたびにいつも感銘を受けるのは、職員の人たちの利用者さん（そうした就労施設に通い、仕事をしている人たちは皆、利用者さんと呼ばれる）に対する粘り強く、なおかつ親身で献身的な対応力だ。

◇もちろん、全員が全員、そのように出来ているわけ

ではない。だが、利用者さんたちに慕われている職員は共通して、自分が利用者さんの何を叱り、どういふところを今注意しているのか、それを言葉でも態度でも明確にしているように思われる。

◇一時の気まぐれで叱ったり、注意したりしていいのではない。一人一人個性（障害）が違う利用者さんを相手に、その個性を踏まえた（相手のことを考えた）叱り方や注意の仕方を実行しつつ、なおかつその理由を明確にする。常にその姿勢を一貫して保っている。そのように真摯な職員とそうでない職員との違いを、利用者さんたちは非常に敏感に感知するという。

◇換言すれば、叱り方や注意の仕方に常日ごろ矛盾のない職員からの叱責については、利用者さんたちは素直に従う。一方で、その時の気分で叱り方や注意の仕方が変わるような「矛盾した人」の言には、利用者さんは素直に従わず、反発する傾向があるようなのだ。

◇利用者さんたちは子どもの頃から、いわゆる健常者の数層倍、周囲の大人たちの世話や庇護を受けながら成長してきているケースが多い。彼らはその分、世間の大人たちが自分に対し、どのようなスタンスで接してきているのかについて、その真意を観察する力に長けているところがあるという。ずるい大人たちに共通しがちな「お為ごかし」の言葉や態度は、彼らには簡単に見抜かれてしまうということなのだろう。

◇ハラスメントになってしまふ叱り方とそうでない叱り方の違いは、例えばそんなところにもあるのではないだろうか。自戒の念を込めつつそう思うのだ。（E）